

令和4年度 外部専門家活用研修会

10月28日（金）に、講師として東北福祉大学教育学部教育学科准教授 杉浦 徹 先生をお招きし、「令和4年度外部専門家活用研修会」をオンラインで行いました。「特別支援学校におけるICTの活用について」をテーマとした御講演をいただくとともに、本校の実践事例について御指導、御助言をいただきました。



情報提示の基本～支援3原則～

- ①視覚的 ②具体的 ③肯定的

育てるのは“情報活用能力”

育てるのは、ICT活用技術ではなく、情報を活用する力であるというお話がありました。児童生徒が「情報に気づき、操作することで、変化が起きる」「自分が発信した情報が相手に伝わる」経験を重ね、情報のよさを味わったりICTを活用することで「楽しくなる」「楽になる」と実感したりすることが大切であり、双方向のやりとりによって、児童生徒の情報を活用しようとする意欲や情報活用能力の育成につながることを再確認することができました。

Not achievement, But emotion

ICTの活用において、「できたこと」だけではなく、「できてうれしい気持ち」を育てることが大切であるというお話もありました。それは、特別支援教育の目標とも重なり、ICTはあくまでもそのための道具であることを理解して活用を考えることへの示唆をいただきました。

… 本校実践事例について *…*

本校中学部3年1組 生活単元学習「お米を育てよう」 五十嵐拓也 教諭

バケツ稲の観察記録を、whiteboardアプリを使ってまとめる授業について御指導をいただきました。

- ◆書くことや話して表現することの困難さが、ICT活用によってクリアされ、生徒の学習意欲アップにつながっている。
- ◆稲の変化を捉える切り口（タイムラプス機能等）や表す方法（数で捉える、表にまとめる等）を試すことで、学習に広がりを持たせることができる。
- ◆生徒が意欲的に取り組んでおり、やりたいことを実現しながらICT活用の技術が身に付いていく。
- ◆「試して、また考える」ことが「主体的・対話的で深い学び」につながる。



<観察記録>



参加者からは、「ICTに限らず、様々な情報を活用できる技術が、子どもたちにとって大切であることが分かった。」「情報に気付くことや自分の発信で変化が起きることを大切に考えると、多様な障がいのある子どもたちにもICT活用をしやすくなった感じた。」等、多くの感想が聞かれ、ICTを活用してこれから取り組みたいことを考える機会となりました。本研修を通して学んだことや考えたことを、日々の授業や児童生徒とのかかわりにおいて実践し、生かしていきたいと思えます。